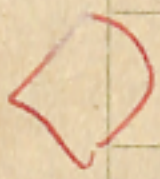


豊後小遊

津村秀松

東雨



霜月の末の方だといふに、近頃にない

か／＼とした暖い日だ。グツと宿の温泉

に浸つてゐる譯には巾かぬ。獨りではある

か、朝の十時といふに、ステッキ一本を杖

りに廻して、別荘から一里程の先の山

にあり観海寺を目指した。

宿の門を出ると、間もなく爪先き上りに

なるので、途中から汗が虫だした。山路に

かゝると、道端にせくらが流れる、谷間

に紅い檜がの木が見ゆる。道を尋ねると山

153
用

作